

出産・子育て支援施策の方向性は



子育てしやすいまちとして拡充を図る

2024年の全国の出
生数は、68万6061人
で、1899年の統計開
始以降、初めて70万人を
割り込んでいます。

1人の女性が生涯に産
む子どもの数の平均であ
る「合計特殊出生率」は
1・15で過去最低を更新
している。厚生労働省で
は、危機的状況と指摘し
ている。

問 2024年の愛知県
及び阿久比町の合計特殊
出生率は。

答 愛知県は1・22、
阿久比町は暫定値1・39
である。

問 組織改革により、職
員の配置換えをしたが、
今後どのように出産・子
育て施策を展開するのか。

答 新たに「こども家
庭センター」を保健セン
ター内に開設し、各種専
門職が妊娠期から子育て
期までの様々な相談に対
応しながら各種施策を進
める。連携体制を他部署
や関係機関、地域へと広
げていく。

問 地域子育て支援拠点
である「あぐびっぴ」は、

利用等を含め、活性化さ
れているか。

答 毎年1万4000
人前後に利用されており、
出生数や対象者数が減少
しているが、利用者数に
大きな変動はない。今後
も季節を感じるイベント
や、保護者がリフレッシ
ュできる講座などを開催
していく。

問 スポーツ村を子育て
の拠点として、どのよう
なプランがあるか。

答 スポーツ村は、老
若男女が交流できるにぎ
わいと活気がある「元気
なまちづくりと交流の拠
点」として、スポーツ村
の整備基本構想を策定す
るので、その中でも検討
していく。

問 母子手帳アプリ「母
子モ」をさらに拡張し、
子育てに関する情報を集
約できるよう改良する考
えは。

答 「母子モ」には、
各種健診のお知らせや町
から配信される子育て情
報を受信できる機能があ
る。現在ある機能を最大
限に活用し、より多くの
情報を提供していく。

問 今後、子育てのまち
として独自性を出して、
阿久比町を町内外に発信
していく手段は。

答 限られた地域資源
を活用しながら事業を展
開し「子育てしやすいま
ち」という印象を持って
頂けるようにシタイプロ
モーションを続けていく。



にいみきお
新美三喜雄 議員
(新済会)

通学路の安全・安心は

対策会議を通して 必要な安全確保に努める

子育ての環境づくりと
して、特に通学路の水路
及び雑草対策、道路横断
時の信号機や横断歩道の
整備等、まだまだ安全・
安心な通学を担保する対
策は十分ではない。

問 通学路の安全・安心
は、どこが管理すべきか。

答 町では「阿久比町
通学路交通安全対策会
議」で危険箇所について
情報交換を行い、児童生
徒の通学の安全確保に必
要な対策を講じている。

問 通学路の信号機や横
断歩道等の設置の要請は、
どこが認可を判断してい
るか。

答 町通学路交通安全
対策会議や地区からの要
望を受け、町から設置者
に要望書を提出し、信号
機、横断歩道は、愛知県
公安委員会、カーブミラ
ー、グリーンベルトは阿
久比町や愛知県など道路



繁茂する雑草で道幅が狭くなった通学路

問 通学路である矢高横
川線のオアシス大橋東の
東方にある三差路に信号
機設置要望をしているが、
設置の進捗が見えない理
由は。

答 町から、警察に対
しこれまで5回要望して
いる。設置は公安委員会
が判断するため、理由に
ついて町は把握していな
い。



11 住み続けられるまちづくりを
包摂的で安全かつ強靱で持続可能な都市及び人間
居住を実現する



3 すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢のすべての人々のけんこうてきな生活
を確保し、福祉を促進する